

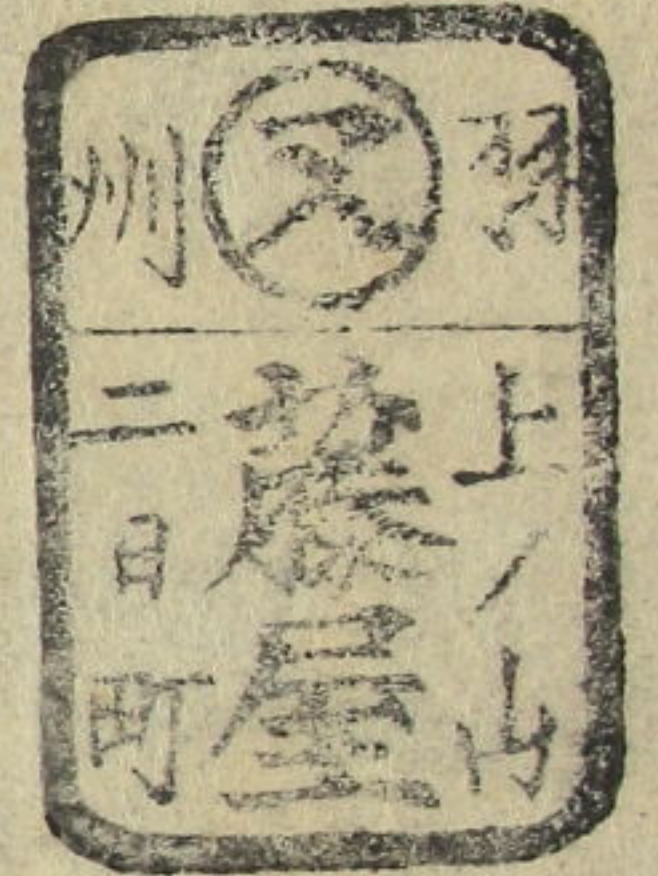


菅原輝吉の天竺歌集 完

特別  
イ 4  
3163  
43



貴  
14  
3163  
43



菅原贈太政大臣歌集序

夫歌之為道也。

本邦神明之至誠。而王政之要道也。足以動天地。知萬物之情性矣。苟正誠述之。則鬼神感應。禮讓溫和焉。菅原公即其人也。公起為萬乘之賢輔。而能致四海之昇平。精忠儼然。實為聖代。

菅原贈太政大臣歌集序

之父宗也。不圖一羅于藤原九大臣之謗。而譴謫於太宰府。遂薨于筑紫。是以公之歌半亡矣。惜哉。僅存于世者。或以懷舊遺憾之歌。強爲公之詠歌。而謾傳之焉。皆好事者。所偽造也。公之忠誠。豈有此詠乎。徐自治。欲嘗校訂其實者。數歲矣。自治懃懃

於此誼也。凡與公之歌者。至國史諸書及俗傳之說。無不盡採而索覽焉。自治。有北拳而後人無疑於公矣。實爲當時之美事也。即集公之詠歌若干首。號曰菅原贈太政大臣歌集。庶幾後學之兒童。此集以像想公之志操與盛德。則使神明降昭鑒之

意。以筆硯而祉福于不朽者。亦復何疑乎。

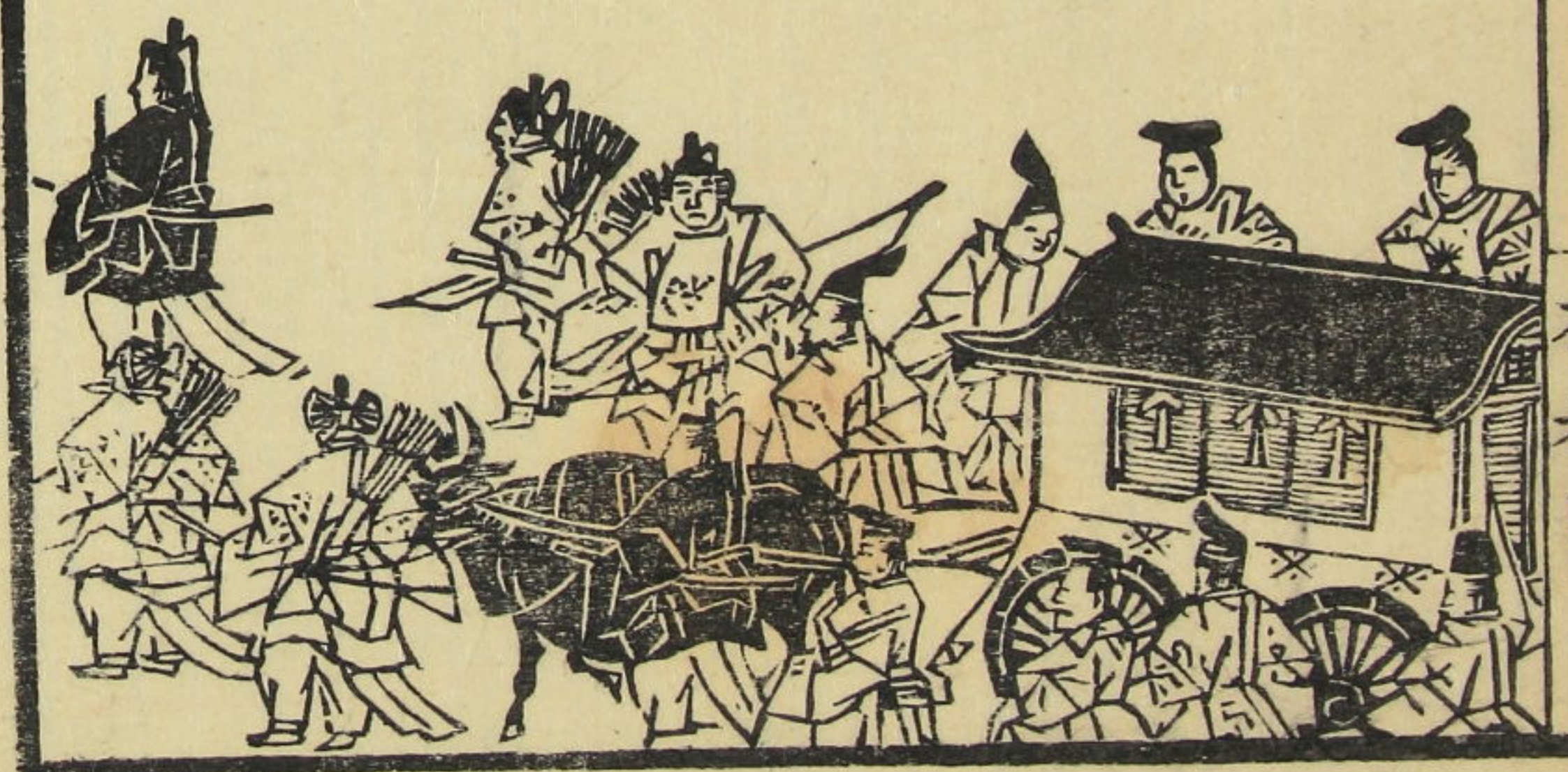
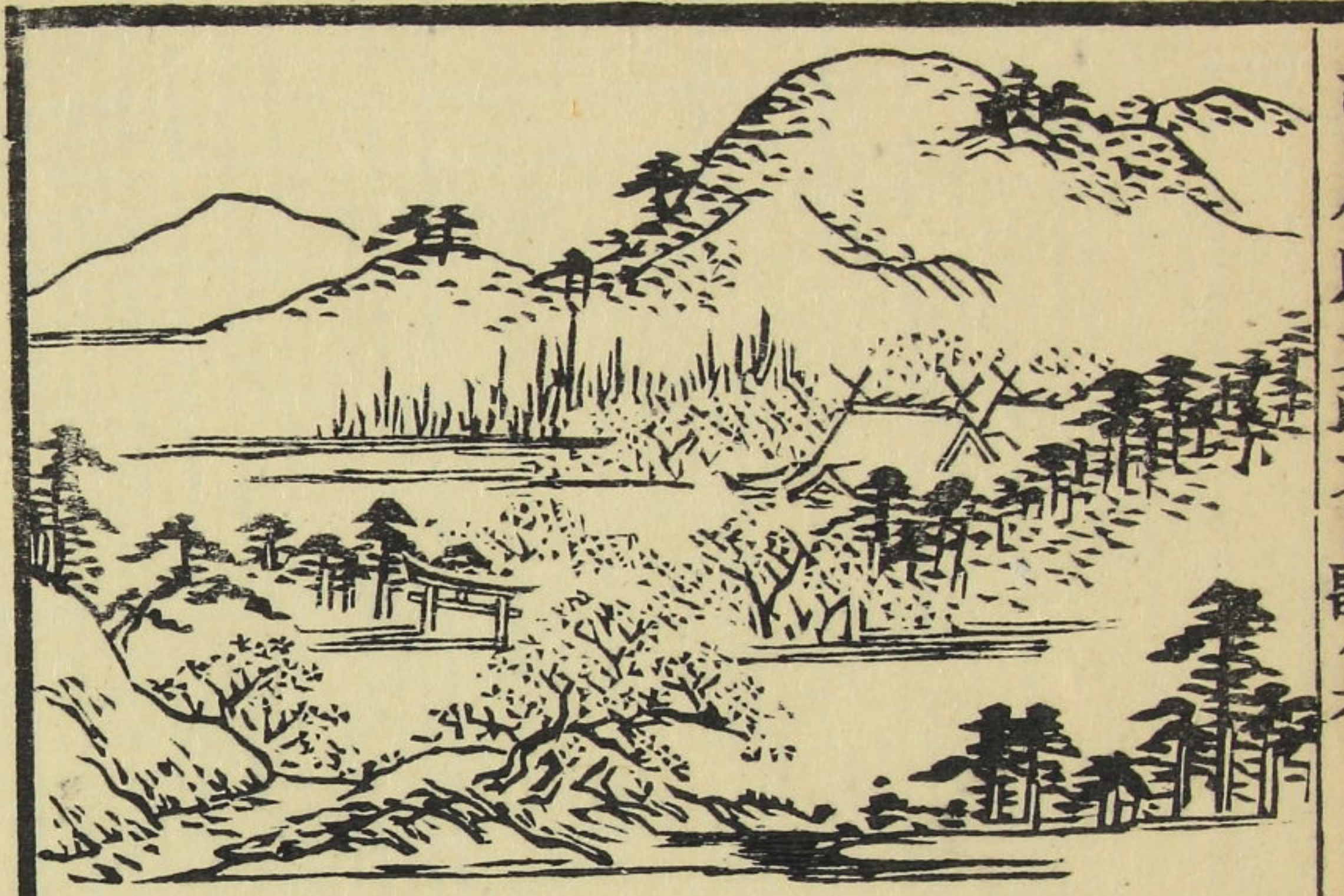
文化十二年乙亥秋七月

上毛 河井纓謹撰



菅原贈太政大臣歌集

寛平の時時せしむる菊合ふとて  
はくろて葉乃花うきくろくろふくろくろ  
あふすの濱のくろくろ葉うきくろくろ  
くろくろくろくろ  
峰乃吹くろくろ白雲のくろくろ  
は白雲のくろくろくろくろくろくろ  
くろくろ  
くろくろくろくろくろくろくろくろくろくろ



法皇宮乃滝と云ふは後一なる御供也と

水引の白糸を人々織を兵旅の衣かたぢやむらん

そとまうらなるはしよふむらうら一の山まのう

ま〜〜

知らじの山移をく〜小根まて木の末毎は白糸懸る

森の花はけりある

此景の糸よりわけ〜咲きの白の小人やま〜あ〜ん

法皇宮なるのよあ〜〜ま〜なる時終田の〜と

よ〜〜ゆら



紅のやうなうしろの白く入木の葉うつらうつらと  
 顯る

木の葉を吹く風やうらやうらと  
 櫻のふみうらと一枝を黄の垣根の  
 花より遠くおちよとる  
 対前裁の様の花ふ  
 ゆひはき侍る

桜をわをさるるぬおる  
 風

風をさるるぬおる  
 街の



歌よしも

花を咲かすもちりく一はなを咲かすもちりく  
 萱草なまゆる

花を咲かすもちりく一はなを咲かすもちりく  
 海され侍りる時家の梅乃花をかん侍り  
 東のうしろ白ひおとせよ梅の志をとりてまはさる  
 萩とよめる

まはさる福とのこもり侍りるをさるく  
 萩とよめる

大鏡



中葉の平と人々の心人の神乃風の村の白鳥  
 鳴るをきくも

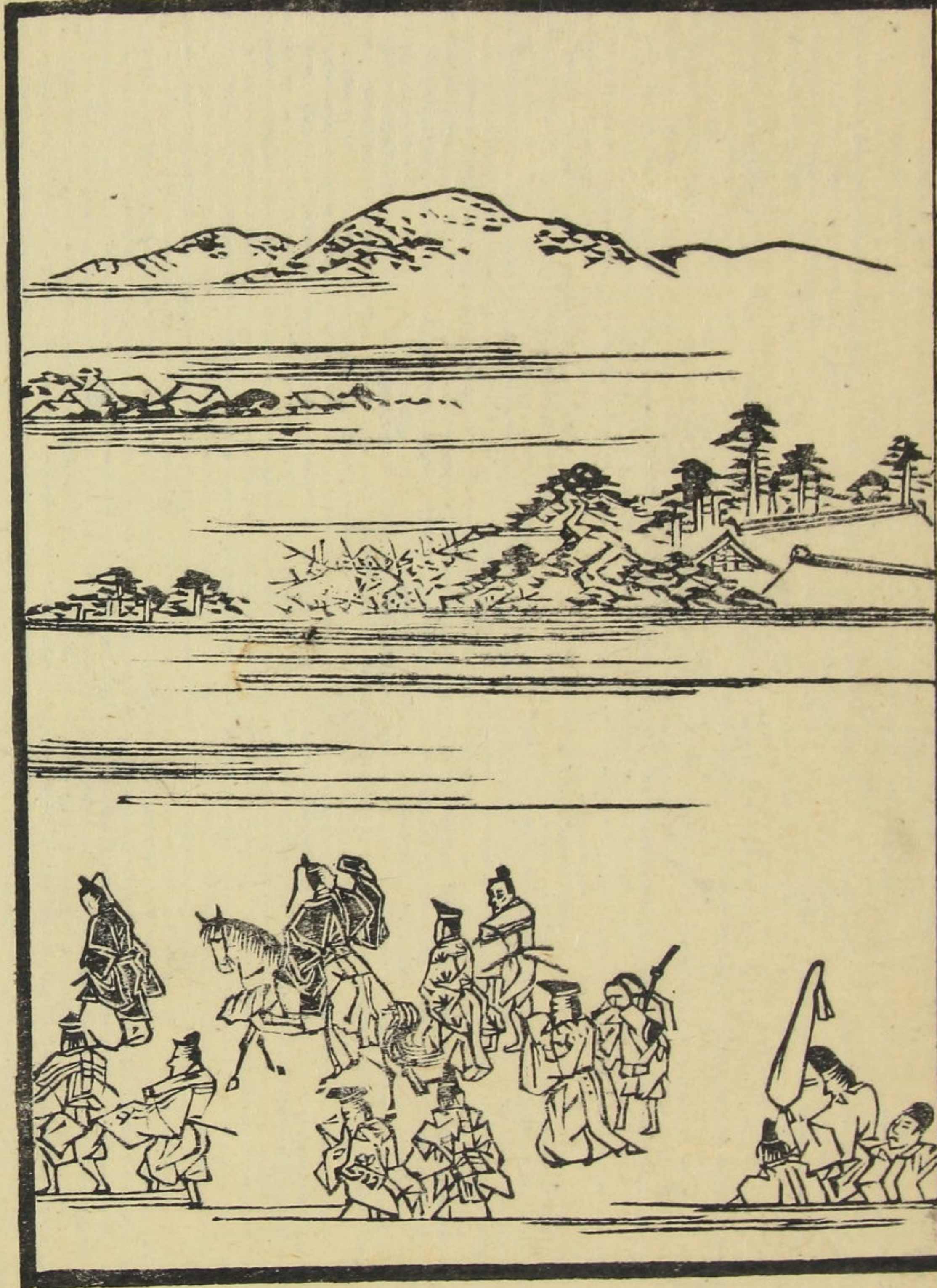
青空のあひなすの影乃をを梅と秋の空  
 流るれけりも

つがねの人の心人の心人の心人の心人の心  
 ありたれけりも

君の心人の心人の心人の心人の心人の心  
 ありたれけりも

菅原政大正歌集  
 五  
 松風閣





柳 一 びら

柳より好ましくいふはさかしく春の心は

さかしくいふ

如草のさかしくいふはさかしく春の心は

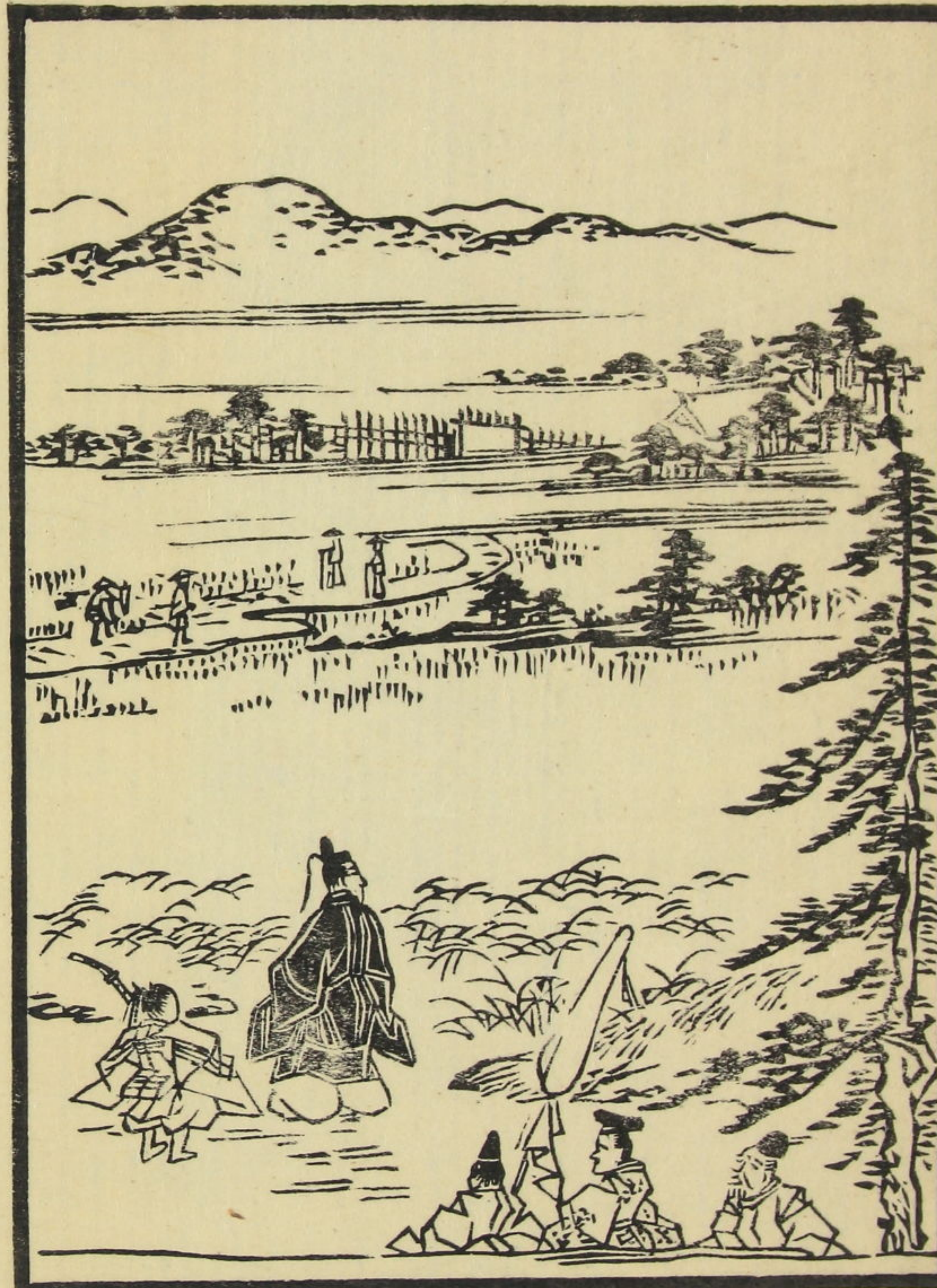
野 一 びら

命のよを我世とさかしくいふはさかしく春の心は

柳 と 一 びら

遠のよ乃朽木は柳まきくまはさかしく春の心は

遠のよ乃朽木は柳まきくまはさかしく春の心は



菅原貞方正木御歌集  
 卷之七  
 松風閣  
 夕されぬやも山を立神さけさううたはたえ垣は  
 影  
 芳ましく照日のなり  
 花をちりゆとえさうつらむけはかふる宮もあはれ  
 芳まことよめる  
 菅原貞方正木御歌集  
 卷之七  
 松風閣

菅原増太政大臣集  
 卷之八  
 梅とさくら



月夜とさくら

月夜とさくら思ひもせし西へ中をさくら

野々侍る

後夜中をさくら思ひもせし西へ中をさくら

梅とさくら

さくらと梅を思ひもせし西へ中をさくら

菅原増太政大臣集

〇八

公風閣



ありあけのやまをみる梅乃花さきのこころを  
 うらみしむる  
 海を渡る水の舟をいづれか  
 日かきぬる  
 おもひはらむる物もあはれ世のほろも  
 ちかぬる  
 しのびぬるまのうらむる影もあはれ  
 ねむる  
 ねむるねむるまのうらむる影もあはれ  
 ねむる



雪且國

空をよみてはるかに  
 ありてはるかにありてはるかに









引用書目

古今集	後撰集	拾遺集
新古今集	續古今集	玉葉集
新拾遺集	新統古今集	續後撰集
夫木集	古今六帖	寬平菊合
万代集	新撰朗詠集	雲葉集
總計一十五部		

東都

鱸

負治編纂

清水濱臣大人同校

文化十二年庚戌次七月新列

松楓閣藏板



440

Handbook

每友文集